

特別展「2018年の自然遊学館の出来事」報告

『自然遊学館の出来事展』開催に当たって

平成5年10月に建てられた自然遊学館は、今年で25年を迎えました。この場を借りて記念行事を紹介します。

自然遊学館25周年記念事業の紹介

当館は平成5年の開館から今年で25年を迎えました。その記念事業として『山は昔は海だった。山には海の名残がいっぱい』と題して行事を行いました。

2018年8月25日・9月29日：和泉葛城山の鉱物と化石『現地見学会』

2018年9月16日：和泉葛城山の鉱物と化石の話『講演会』

2019年2月2日：和泉葛城山の陸産貝調査



8月25日、ほの字の里



9月29日、新滝の池周辺の地層観察



2月2日、陸産貝調査

他にも8月28日：水産技術センター見学と『講演会』・住吉崎『磯観察会』も行いました。



8月28日、大阪湾の漁業についての講演会と住吉崎磯観察・採集された生きもののお話

これらの行事は、船の科学館『海の学びミュージアムサポート事業』の中の行事として実施しました。参加者は山と海の関係はあるのか？との疑問を持ちながらも、海と山との関係を想像しながら参加していました。参加された方々の年齢層の広さやその活動の熱心な様子から、数十億年の昔と今をつなげる行事は魅力あるものであったようでした。

もう一つの重大出来事。台風被害・自然災害の猛威。これは想像を超える猛烈なものでした。この場を借りて、その報告をさせていただきます。

台風被害報告	所 属	自然遊学館
	内 容	停電とプレハブ倉庫倒壊など



写真 1



写真 2



写真 3

写真 1 : 強風によりプレハブ倉庫横転
見えているのは倉庫の底。

写真 2 : 停電のため水槽のエアレーションが止まる。
携帯式のポンプを設置。

写真 3 : 大型海水水槽の魚がほぼ全滅。
クロダイ、メジナなど。

写真 4 : 自然遊学館横のケヤキの木が根こそぎ倒れる。



写真 4

9月5日の状況

4日が休館日のため被害に気付いたのは翌5日。裏の敷地内のプレハブ倉庫が強風にあおられ隣のケーブルテレビ敷地内に横転。教育研究センターの職員の方の協力により当館敷地内へこのままの形で滑らせるように移動した。また、停電により水槽の空気送りポンプが止まり魚はほぼ全滅。生き残った魚に乾電池使用の携帯式のポンプを使用。また、発電機で応急処置を行った。他にも当館敷地隣のケヤキも根こそぎ倒されていた。

今後について

横転したプレハブ倉庫については倒れたことによる衝撃で、扉や柱が外れたり曲がったりして歪みが生じている。このことから再利用は難しい。次の台風に備え、天井や横壁部分の板を外し骨組みだけにして、ロープで固定している。今後廃棄することになる。停電については館所有の発電機と浄水課からお借りした発電機で対応した。台風は事前に予測できる災害であることから、発電機が使えるよう停電に備える準備が必要。倒木に関しては翌日シルバーの方たちにより処理され、現在は無くなっている。

台風のことは、今回の特別展との関係というよりは、関西全域での出来事になりますが、いまだ台風被害が完全に復旧していないことも考えると、もう一度見直して対策を考えなければならない出来事になると考え、あえて紹介させていただきました。

さて、本題に入ります。

当館の主な事業は調査研究活動、展示普及活動、維持管理活動の3つです。さらに展示普及活動には、船の科学館からの助成金で行う『海の学びミュージアムサポート事業』活動があります。

他にも、出前授業や各事業所、教育機関から依頼を受けて行う観察会への講師派遣、さらに、各学校からの団体見学や職場体験の受け入れを行っています。

自然遊学館には、自然に親しみ、自然を大切にする心を育てる仕掛けがたくさんあります。今後とも来館された皆様がゆっくり見学していただけるよう努めてまいります。どうぞ、ゆっくりご覧ください。

最後に『自然遊学館の出来事』開催に際し、多くの皆様にご協力をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

2019年3月1日

貝塚市立自然遊学館長
高橋 寛幸

展示会場の様子



展示項目

1. 写真と解説文

2018年1月から12月までの主な出来事（生きものの記録や行事など）の写真と解説次のページ以降に、解説文を掲載しました。また、2018年に自然遊学館が行った行事の報告を、1行事ごとにまとめてパネルにしました。

2. 標本

2018年に貝塚市内で採集された標本や寄贈標本・はく製を展示しました。また、これまでの特別展で展示し切れなかった西村恒一氏寄贈のチョウ類標本も展示しました。

3. 動画

2018年に撮影した貝塚市の生きものや、自然遊学館の展示、行事に関する動画32本を、大型モニター上で再生しました。

4. 海の学びミュージアムサポート

「海の学びミュージアムサポート」（日本財団）からの助成を受けて行った活動の報告とアンケートを展示しました。

5. 調査

近木川河口と二色の浜での鳥類調査時に撮影した画像を展示しました。

1. 写真と解説文

以下で紹介する生きものと行事の写真は、すべて貝塚市内で撮影されたものです。それぞれの出来事について、タイトル、撮影日、撮影場所、1行コメント、分類群（目と科）、解説文、写真を示しました。

ガヤドリナガミツブタケ・・・2018年1月13日、木積

蛾が変身？

ニクザキン目 バッカクキン科

名前の通り、ガ類に寄生する菌類（キノコ）で、いわゆる冬虫夏草の仲間です。2012年5月に千石荘で見つけて以来、2例目の確認となりました。千石荘のものより突起が長く伸び、標本として美しさが保たれていました。この突起は最大で7mmまで伸びるそうです。ガの翅脈に沿って伸びていることは、翅脈が水分や栄養分の流れ道になっていることと関係があるのかもしれませんが。



ガヤドリナガミツブタケ

メジロ・・・2018年1月27日、二色の浜公園

目白押しだったのに

スズメ目 メジロ科

近木川河口の右岸で珍しいツクシガモを撮影した帰り道、シャリンバイの植え込みで実を食べている（？）群れに出会いました。1月は、6日に山手の池でオシドリ、15日にズグロカモメを河口で、そしてこの日のツクシガモと、鳥たちとの出会いが目白押しだったのに、ピントが合った写真は、このメジロだけでした。英語でも white-eye とされるそうです。命名の発想が同じなんですね。



メジロ

ホトケノザ・・・2018年2月12日、千石荘

めったに見ない雪景色

シソ目 シソ科

温暖化のせいか、千石荘でもなかなか雪景色の写真を撮る機会が減ってきたように思います。4月から12月までは昆虫調査時や千石荘講座での写真がありますが、冬の写真があまりなく、少し気になっていました。久々の機会なので、通勤前に寄って、フユイチゴの赤い実や、シダの仲間のウラジロなども、雪をかぶった写真を撮ることができました。



ホトケノザ

ビンズイ・・・2018年3月2日、近木川河口

山の鳥が河口に？

スズメ目 セキレイ科

山の鳥のイメージですが、夏は山地で過ごし、冬は平地の松林などに降りてくるそうです。二色の浜公園にもクロマツの林があるので話は合います。この日は右岸で、周りを見渡せるセンダンの枝に止まって、あっち向きこっち向き、せわしなく体を動かしながら糞をしていました。この木では他の鳥も糞をしていきます。鳥たちが糞をしたくなる場所なのかもしれません。



ビンズイ

ヨゴレネコノメソウ・・・2018年3月29日、蕎原

汚れた猫の目？

ユキノシタ目 ユキノシタ科

ネコノメソウの名前は、割れた実の形が猫の目のように見えることによるそうです。花卉がなく、包葉が花の「台」となっています。葉には薄暗い緑色に白色の斑点があり、ヨゴレネコノメという可哀そうな名が付けられています。イワボタンの変種で、イワボタンの記録は和泉葛城山のAコース付近にありました。覚野良子さんから開花情報を教えていただき撮影に行きました。



ヨゴレネコノメソウ

ムネアカオオクロテントウ・・・2018年4月10日、千石荘館内に「Wanted」の張り紙

コウチュウ目 テントウムシ科

台湾・中国南部から東南アジアにかけて分布する外来種で、関西地方では2015年から確認されていました。泉州では、熊取町、泉佐野市、岬町で2017年に見つかっています。1週間ほど前からヤマザクラの葉にマルカメムシが集まっています、この日、マルカメムシの幼虫を餌とする、この外来テントウを1個体見つけました。臭いに惹かれてやって来たのでしょうか。貝塚産テントウムシ科31種目です。



ムネアカオオクロテントウ

ヒトリシズカ・・・2018年4月12日、和泉葛城山

ようやく花の時期に

センリョウ目 センリョウ科

登山道 A コース (宿ノ谷) と本谷に記録がありました。以前から覚野良子さんに場所を教えてもらっていたのに、行くと、葉だけの時期だったりして、なかなか花の時期に行くことができませんでした。今回は、印象的な名前に合った可憐な白い花が咲いていて、葉の鮮やかな緑色との対照も美しく、息を飲むほどでした。白い棒状の部分は花弁ではなく雄蕊 (=おしべ) だそうです。



ヒトリシズカ

アオアシシギ・・・2018年4月18日、近木川河口

20年ぶりの記録

チドリ目 シギ科

昼休みに散歩に行くと、河口の突堤の手前で見慣れないシギが1羽いました。どこが見慣れないかというと、嘴が少し上向きに反り返っていることでした。脚の青色も特徴です。和田太一さんにアオアシシギだと同定していただきました。春は北方へ、秋は南方へ通り過ぎる旅鳥で、単独でいることが多いそうです。大阪府レッドリストでは、絶滅危惧Ⅱ類に指定されています。



アオアシシギ

アユボランティア・・・2018年5月～9月、近木川

毎年アユが来る川になりました

キュウリウオ目 キュウリウオ科

今年も近木川のアユを調べるボランティアを募集して、自然遊学館スタッフと一緒に調査を行いました。5月4日に群れが確認され、6月中旬まで下流で確認が続きました。一部の個体は採集して、館内の水槽に展示しました。6月から8月までは、国道26号線の上流側でも確認され、9月の下流での行事では2個体採集されました。



アユボランティアの活動

スナアカネ・・・2018年5月14日、地藏堂（第4プール）

76種目のトンボ

トンボ目 トンボ科

貝塚市営第4プールでヤゴ救出作戦を実施し、採集したヤゴを館内に展示していると、見慣れないアカトンボの仲間が羽化しました。大陸からの飛来種とされているスナアカネでした。2017年の秋には南大阪で成虫が確認されました。おそらく貝塚市内にも飛来して、第4プールに産卵したものと推測されます。和名の由来に関しては、運動場の砂の色を思い浮かべてください。



スナアカネ

クロモンキリバエダシャクの幼虫・・・2018年5月17日、和泉葛城山

芸が細かい

チョウ目 シャクガ科

山頂付近の木柵の上において、その動きから、尺取り虫だとはすぐに分かりました。腹部の背面に小枝のような「裝飾」を付けていて、ふつうの寸胴の尺取り虫よりも芸達者です。尾肢で木柵に掴まっている時に、頭と体を左右に振る様子は、風に吹かれて揺れている枝というよりは、かえって目立っていました。館で調べると、クロモンキリバエダシャクというシャクガ科の幼虫だと分かりました。



クロモンキリバエダシャクの幼虫

ナツノツツレサセコオロギ・・・2018年6月8日、千石荘

仕掛けでも採れなかったのに

バッタ目 コオロギ科

2014年以來、千石荘の池の堤で、鳴き声は確認していました。でも、地面のすき間などに入って鳴いているらしく、仕掛けでも採集できませんでした。幼虫で冬を越して、初夏に成虫になるという、やや珍しい生活史を持っています(ふつうのコオロギは卵で越冬し、秋に成虫になります)。当日は、小雨模様で薄暗く、地面にたくさん出てきて、草上にも飛び移るほどの状態で、容易に採集できました。



ナツノツツレサセコオロギ

アライグマ・・・2018年6月12日、千石荘

かわいい? かわいそう?

食肉目 アライグマ科

道端で出逢いました。親からはぐれた子供のアライグマです。人間を見ても怖がりません。幼獣でも「グー、グー」と鳴くことを知りました。丸くてかわいいのですが、アライグマは、農作物を荒らしたり人に危害を加えたりすることから、特定外来生物に指定されていて、飼育・運搬が禁止されています。和名の由来は、前足をすり合わせる仕草が手を洗っているように見えるからだと言われています。



アライグマ

アヤヘリハネナガウンカ・・・2018年7月2日、千石荘

知らない虫は多い

カメムシ目 ハネナガウンカ科

まだまだ知らない変わった虫が身近にいるものだと感心しました。セミに近い生きものと言えば少しはイメージが湧くかもしれません。体長の2倍以上もある前翅と胸部の小ささから判断して、力強く羽ばたくという代物ではないと思います。ということは、風に吹かれて移動するのかもしれないかもしれません。詳しい生態は分かりませんが、科の特徴から判断して、植物の汁液を吸うことだけは確かです。



アヤヘリハネナガウンカ

ニホンヒキガエル・・・2018年7月19日、和泉葛城山

好き嫌いが分れます

無尾目 ヒキガエル科

山頂付近のブナ林の根元にいました。沢からかなり離れた場所です。ヒキガエルは最も水域に依存しない生活をするカエルと言われていて、なるほどと思いました。醜いという人もいるし、そう書かれている本もありますが、とてもかわいいと思う人もいて、好き嫌いが分かれる代表的な動物でしょう。ヤマカガシというヘビはヒキガエルの毒に耐性があり、それを摂食して、自らの毒とするそうです。



ヒキガエル

アミモンガラの幼魚・・・2018年7月28日、二色の浜

またまた南方系の魚が登場

フグ目 モンガラカワハギ科

見るからに南方系の魚という感じがします。幼魚は流れ藻などに生息し、成魚になると全長30cmになります。あまり食用としては利用されないようです。最近は二色の浜でも、ソウシハギ、チャイロマルハタ、オヤビッチャ、セグロチョウチョウウオ、アケボノチョウチョウウオや、後で登場するナンヨウツバメウオのように、南方系の魚の確認が増えています。



アミモンガラの幼魚

ボウズハゼ・・・2018年8月2日、近木川下流

坊主頭のベジタリアン

スズキ目 ハゼ科

川で生まれ、仔魚は海で生活し、再び川を遡上します。このように一生のうちの一時期を海で生活するものを両側回遊（りょうそくかいゆう）といいます。この個体は、川を遡上する時に採集されたものです。近木川で初記録となりました。名前の由来は2通りで、頭部が坊主頭のように丸いことと、藻類を摂食するベジタリアンであることです。



坊主頭

カジカガエル・・・2018年8月8日、近木川上流

瞳の美しさに惹かれます

無尾目 アオガエル科

蕎原町会の「そぶら探検」というイベントの時に撮影できました。体長8cmほどの立派なメス成体で、おそらく4～5歳だと思われます。オスのフィフィフィフィフィ・・・という美しい鳴き声は、春から夏にかけて、近木川上流の至るところで聞くことができ、鳴く姿はともかく、鳴き声を知っている方は多いと思います。和名の由来は、オスの鳴き声が雄鹿に似ていることだそうです。



カジカガエル

ナンヨウツバメウオの幼魚・・・2018年8月18日、二色の浜

変わった形は何のため？

スズキ目 マンジュウダイ科

幼魚は、枯葉に擬態していると言われています。海面に浮かんでこそその枯葉への擬態でしょうが、当館の狭い水槽ではその行動は見られませんでした。体部の形は、幼魚も成魚も丸い形で、幼魚ほど背びれと臀びれが長く、より「奇妙な」形に見えます。これも南方系の魚で、本州沿岸ではほとんど幼魚しか見られず、死滅回遊だと言われています。



ナンヨウツバメウオの幼魚

倒れたケヤキ・・・2018年9月4日、自然遊学館前

根なしケヤキだったのか？

バラ目 ニレ科

公園から自然遊学館に向かう時、右手にケヤキ、左手にオオシマザクラがありました。そのケヤキが、台風21号によって倒れてしまいました。根がほとんど張っていませんでした。二色の浜公園のヒマラヤスギやクロマツ、汽水ワンド北側のソメイヨシノ、千石荘のコナラやナナメノキ、水間公園のコナラやアベマキ、東手川のスギ、和泉葛城山のブナなど、この台風によって多くの木が倒れてしまいました。



倒れたケヤキ

自然遊学館の被害・・・2018年9月4日～7日

電気はありがたい

9月4日に台風が通過し、その後、停電となりました。9月5日の朝、プレハブ倉庫が隣の敷地内に倒れていることを確認しました。停電は続き、臨時休館、海水水槽のグレとブナが死亡。館の発電機だけでは足りず、津田浄水場から発電機を借りて、水槽のエアレーションや冷凍庫を作動しました。9月6日も停電のため臨時休館。9月7日に、ようやく開館することができました。



停電中の作業

マイコアカネ・・・2018年9月15日、トンボの池

こっちが本命ではないのですが

トンボ目 トンボ科

秋にマイコアカネを見るが多くなりました。オスの頭部前面が青白くなるのが特徴で、この色の美しさが和名の由来です。そのマイコアカネに似たマユタテアカネが9月23日と24日に見られ、居てもおかしくないと思いながら、これまでの記録をたどっていくと、2017年の6月30日がマユタテアカネの初記録で、この時にトンボの池で25種目と報告しておくべきだったことが分かりました。



マイコアカネ

アケボノチョウチョウウオの幼魚・・・2018年10月6日、二色の浜

またまた南方系の魚

スズキ目 チョウチョウウオ科

成魚は全長18cmほどになりますが、本州で見られるものはほとんど全長5cmまでの幼魚です。沖縄ではふつうに見られる熱帯魚です。成長して沖縄に帰ることはないそうです。2017年の9月には二色の浜でセグロチョウチョウウオの幼魚が採集されています。周囲の黄色と背側後部の黒色の配置が似ていますが、アケボノの方は白色部に斜めの線が20本ほど入っているのが特徴です。



アケボノチョウチョウウオの幼魚

ハシボソガラスのターニング・・・2018年10月22日、近木川河口

こんなの朝飯前？

スズメ目 カラス科

この年の初夏から、近木川の河口でハシボソガラスが石をめくってエサさがしをしている行動が確認されていました。石をめくる→エサを探す→周りを警戒、という行動が繰り返されます。捕まえたエサはカニが多いようでした。この行動はターニング（turning）と呼ばれます。松原始さんの著書「カラスの教科書」では、有名なくみ割りの次に、ターニングが紹介されています。



石をめくるハシボソガラス

アナグマの死体・・・2018年10月25日、梶谷

異様に重たい

食肉目 イタチ科

アナグマを見かける頻度が高くなっているように思います。この死体はお腹が膨れていて、すごく重たかったので、大阪市立自然史博物館に持って行きました。担当の和田学芸員も「たしかに腹が膨れていますね」と言っていました。妊娠の時期ではありません。いずれ原因が分かるとと思います。貝塚市内では、千石荘から和泉葛城山の山頂にかけて生息が確認されています。



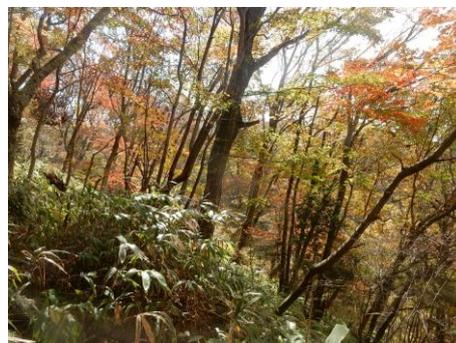
アナグマの死体

ブナ林の紅葉・・・2018年11月8日、和泉葛城山

日差しが美しさを引き立てる

ブナ目 ブナ科

ブナの葉自体はそれほど赤くなりませんが、カエデの仲間やウルシの仲間の紅葉が美しい景観をつくります。でも、紅葉が美しい時期は短く、山頂付近で美しい紅葉の写真を撮れるポイントも限られています。風が強くと雲の動きが速いと、晴れと曇りの交代が速くなります。日差しがある時は、黄色から赤色のコントラストが強まり、景色がより美しくなることが分かります。



ブナ林

クロヤチグモ・・・2018年12月13日、和泉葛城山

ヤチグモ類の同定は難しい

クモ目 タナグモ科

ヤチグモの仲間は地面に筒状の巣を作って生活しています。同定が難しく、自然遊学館の標本でもヤチグモ属の一種として、種まで同定していないものが幾つかあります。蕎原の本谷で1月4日によくクロヤチグモと分かるメス成体を採集し、12月13日にも写真のメス成体を石の下で採集できました。一般的なクモが成体になる時期は初夏～秋なのですが、これは成虫で冬を越します。



クロヤチグモ

ヒメジンドウイカ・・・2018年12月26日、貝塚港

ヒイカとも呼ばれます

ツツイカ目 ヤリイカ科

暮れも押し詰まった日の朝一番に、海釣り行事でお世話になっている食野聡志さんから寄贈を受けました。貝塚港で夜中に釣ったヒメジンドウイカで、自然遊学館にこれまで記録と標本がなかったものです。成長すると胴長が10cmになるそうです。イカの飼育は流水がないと難しく、正午までに死亡してしまったので、生体の展示を見た来館者はごくわずかでした。



ヒメジンドウイカ

2. 標本

伊藤秋男・サダコご夫妻からの寄贈剥製のうちシカ・アナグマ・タイマイ、汽水ワンドの水生生物標本、2018年に貝塚市内で採集された昆虫の標本、「トンボの池」で採集されたトンボの羽化殻、2016年と2017年の出来事展に引き続き、西村恒一氏寄贈チョウ類標本の一部などを展示しました。

3. モニターに映した動画

2018年に貝塚市内、および自然遊学館の行事で撮影した動画32本を大型モニターに映しました。32本のリストを次頁の表に示しました。

モニターに映した動画のリスト（2018年展）

番号	月	日	タイトル	場所	時間（分）
1	1月	18日	カルガモの水浴び	近木川河口	1:08
2	2月	7日	ツグミをねらうネコ	脇浜	0:55
3	2月	25日	チョウセンイタチ	三ツ松	0:46
4	3月	2日	ビンズイ	近木川河口	0:42
5	3月	21日	レンギョウの花を食すヒヨドリ	二色の浜公園	1:17
6	4月	12日	コガタブチサンショウウオ	和泉葛城山	0:28
7	4月	18日	アオアシシギ	近木川河口	0:46
8	4月	26日	ホソミオツネトンボ	馬場	0:35
9	4月	27日	アマモの花	二色の浜	1:02
10	5月	17日	クロモンキリバエダシヤク幼虫	和泉葛城山	0:39
11	5月	21日	サトアリツカコオロギ	二色の浜公園	0:25
12	6月	12日	アライグマ	千石荘	0:28
13	6月	22日	ハクセンシオマネキ	近木川河口	0:51
14	7月	13日	オオシオカラトンボ	トンボの池	0:35
15	7月	19日	ナキイナゴ	和泉葛城山	0:16
16	7月	22日	アカエイの幼魚	二色の浜	0:27
17	7月	26日	ルリタテハ	馬場	0:17
18	8月	7日	アブラゼミ	市民の森	1:40
19	8月	8日	カジカガエル	近木川上流	0:39
20	8月	18日	ナンヨウツバメウオの幼魚	二色の浜	0:55
21	8月	29日	ヤマトオサガニ	近木川河口	1:08
22	9月	25日	ヒメヤマトオサガニ	近木川河口	0:28
23	10月	1日	キアシシギ	近木川河口	0:19
24	10月	6日	アケボノチョウチョウウオ	二色の浜	0:37
25	10月	-	ヒキガエルへの餌やり	自然遊学館	0:56
26	10月	9日	アサギマダラ	和泉葛城山	1:49
27	10月	13日	ウミホタルの行事	海洋センター	0:41
28	11月	8日	ブナ林の紅葉	和泉葛城山	1:57
29	11月	13日	シロチドリとハマシギ	二色の浜	1:09
30	12月	4日	オオカマキリ	千石荘	1:00
31	12月	26日	ヒメジンドウイカ	貝塚港	0:39
32	5月～9月		アユの観察と行事	近木川	3:22

* 2018年に撮影した動画のうち、比較的短いものを選んで、再生しています。

* ウミホタルの行事以外は、貝塚市内で撮影した動画です。

* その他、やや長い時間の動画や、2018年以外に撮影した動画も、

YouTube上に、アップしています。

「貝塚市」、「自然遊学館」、「近木川」、「せんごくの杜」、「和泉葛城山」などの言葉で検索して、ご覧いただければ、幸いです。

4. 海の学びミュージアムサポート

「海とつながる山」というテーマで取り組んだ行事や調査を紹介しました。

5. 調査

当館の鳥担当スタッフが毎月1回、近木川河口および二色の浜で行った鳥類調査時に撮影した画像を展示しました。（当館の展示ホールにある鳥類調査コーナーに貼り出したものです）